



平成28年度事業計画書

自 平成28年4月1日

至 平成29年3月31日

学校法人多摩美術大学

目 次

はじめに	1
1. 中長期的な基本計画	1
(1) 教育及び研究体制の整備と再点検	
(2) 学生受け入れ態勢の強化	
(3) 国際的な美術家、デザイナー育成のための環境整備	
(4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革	
(5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備	
(6) 管理運営の強化	
2. 平成28年度事業計画の概要	2
(1) 教育及び研究体制の整備と再点検	2
1. 教育課程、教育内容、教育方法改善に向けた取り組み	
2. 大学基準協会認証評価（平成27年度申請）結果の対応	
(2) 学生受け入れ態勢の強化	3
1. 平成28年度より開始する推薦入学試験の実施	
2. 進学相談会等の取り組み	
3. 学生支援	
(3) 国際的な美術家、デザイナー育成及び国際貢献のための環境整備	3
1. 新たな交換留学実施協定校の拡充及び国際交流に関する学内規程点検と見直し	
2. 交換留学制度（派遣・受入）	
3. パシフィック・リム（Pacific Rim）	
4. 国際貢献（Day-See）プログラム	
(4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革	4
(5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備	5
1. 上野毛キャンパス整備	
2. 八王子キャンパス整備	
(6) 管理運営の強化	5
3. 平成28年度事務部門の計画	6
1. 教育改革面の推進計画	6
教務部、入学センター、研究支援部、学生部、図書館、美術館、 メディアセンター、生涯学習センター、芸術人類学研究所、 造形表現学部事務部	
2. 管理運営面の推進計画	8
総合企画室、総務部、経理部	

平成 28 年度事業計画

はじめに

本学の淵源は、昭和10年（1935年）9月開設の多摩帝国美術学校にある。本学は、北畠吉、杉浦非水、井上忻治、牧野虎雄らが中心となって、官立の美術学校にはない「自由なる精神」が生み出す美術の根源を求めて、東京府（現在の東京都）東京市世田谷区上野毛の地に創設された。以来80年「自由と意力」の理念の下、わが国の芸術文化の進展に寄与すべく、現代社会に貢献する優れた芸術家・デザイナー並びに教育者・研究者の育成を目標に掲げ、広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身につけた人材の育成を目指して努力を重ね、これまで3万7千人余の才能溢れる卒業生を送り出している。

1. 中長期的な基本計画

大学を取り巻く環境は依然として厳しく「2018年問題」と言われる18歳人口の急激な減少や大学の質的転換を図るため「学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）、「アドミッション・ポリシー」（入学者受け入れの方針）の三つのポリシーを策定し、それらを様々な関係者（多様な入学希望者、学生、保護者、高等学校関係者、地域社会、国際社会、産業界等）が十分理解できる内容に表現して、これらのポリシーと本学の建学の精神である「自由と意力」に基づく大学教育改革を推進し自主的・自律的に展開し永続的な発展を目指す。

平成28年度の事業計画にあたり、その前提となる中長期的な基本計画は以下のとおりである。

- (1) 教育及び研究体制の整備と再点検
- (2) 学生受け入れ態勢の強化
- (3) 国際的な芸術家、デザイナー育成及び国際貢献のための環境整備
- (4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革
- (5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備
- (6) 管理運営の強化

2. 平成28年度事業計画の概要

中長期的な基本計画に基づき策定された事業計画の概要は次の通りである。

(1) 教育及び研究体制の整備と再点検

1. 教育課程、教育内容、教育方法改善に向けた取り組み

①教育課程の体系化

カリキュラム、履修案内、シラバス、時間割、出校表等を再点検して教育課程を体系的に整備し授業と学事の円滑な実施を進める。

②カリキュラム改革への取り組み

平成27年度に改訂した教養教育カリキュラム設計書に基づく、共通教育時間割のゾーン・ルール化やシェイプアップ化などの改革を更に推進し本学に相応しいキャリア教育を実践する。

③統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科の設置計画の完全履行

設置の趣旨、目的に沿った教育研究活動の実施及びカリキュラム、時間割の充実化を図り設置計画の完全履行を実現する。

④多様化する学生への対応

適切、親密な履修相談等を通じて欠席過多学生や障がいを持つ学生の修学支援へ向けたサポートを推進する。

2. 大学基準協会認証評価（平成27年度申請）結果の対応

①教育課程の編成・実施方針

美術学部及び美術研究科における教育課程の編成・実施方針の内容を人材育成目的から教育内容や教育方法に関する考え方を示すようにする。

教育課程の編成・実施方針等の公表について、美術学部は大学ホームページのみの公表に留まり、美術研究科は媒体での公表が無いので学生や教職員をはじめ広く社会一般に公表する。

②教育方法

年間履修登録可能単位数の上限が設定されていない学科があるので、単位制度の趣旨に照らし改善する。

美術研究科の博士前期課程における研究指導、学位論文作成指導を研究指導計画に基づき確実に行う。

③内部質保証

全学的なPDCAサイクルを恒常的に機能させるため「学内改革・大学評価申請本部」の設置、構成メンバー、審議事項、自己点検・評価の周期等について定め、内部質保証についての組織体制が機能するよう進める。

(2) 学生受け入れ態勢の強化

1. 平成28年度より開始する推薦入学試験の実施

本学は、変化の度合いを深めつつある社会環境にあつて、文化芸術のさまざまな局面で活躍しうるバイタリティーに富んだ、多様な人材を育成することを重要なミッションとして掲げてきた。

今年度より全学的に導入する推薦入試はその意図をさらに先へと進めるものであり、この入学試験にあつては当然ながら一律の能力ではなく、それぞれの分野で望まれる資質、そこで学ぶ積極的な意欲、将来への明確な姿勢などが総合的に問われることになる。

2. 進学相談会等の取り組み

平成28年度入学生一般入試の志願者数は6,241人で昨年度に比べ242人減、率にして3.7%減少であった。しかし前年度オープンキャンパスも進学相談会も増加しているので志望者増加に結び付けたい。

今年度もオープンキャンパスと進学相談会の同時開催を7月16・17日の2日間開催し、来場者に本学の特徴である元気や熱意を直接感じてもらう機会とする。

また、11月の芸術祭でも進学相談会を実施して適時適切な密度の濃い情報提供を行う。

更に高等学校教員の研究会とも結びつきを強くするための取り組みを強化する。

3. 学生支援

①学生生活調査結果を活用した体系的な学生支援の構築を図る

②本学学生優先寮の整備

平成27年から本学学生の受入れが始まった学生（優先）寮の利用者数の増加

【学生優先寮の概要】

建物名	ディアコニア橋本
所在地	相模原市緑区橋本6-6-10 八王子キャンパスから2Km(自転車10分、橋本駅徒歩3分)
構造等	平成15年3月竣工、RC造6階建、全135室うち69室

(3) 国際的な美術家、デザイナー育成及び国際貢献のための環境整備

1. 新たな交換留学実施協定校の拡充及び国際交流に関する学内規程点検と見直し

現在、海外大学協定校は19校（平成28年3月現在）であり、このうち平成27年度中に交換留学生として本学学生が派遣されたのはベルリン芸術大学をはじめとする6校10名、協定校から受入れた学生は9校11名である。

海外へ赴く学生や海外から受入れる留学生を通じて学生のグローバル感覚を養うためには、より多くの交換留学生が求められることから、協定校拡充に向けて

協定校との交流内容と学内規程の見直しを進める。

2. 交換留学制度（派遣・受入）

平成28年度の交換留学生派遣については、協定校のうちベルリン芸術大学（ドイツ）4名、アアルト大学（フィンランド）2名、弘益大学校（韓国）2名、ヘリット・リートフェルト・アカデミー（オランダ）2名、グラスゴー美術学校（イギリス）、国立台北芸術大学（台湾）、オスロ国立芸術大学（ノルウェー）各1名、合計13名の学生が推薦されている。

学生を派遣し協定校と連携することで双方の教育環境の整備を図りグローバルな人材の育成を目指す。

平成28年度前期の交換留学生受入についてはアアルト大学から2名、国立台湾芸術大学、国立台北芸術大学（台湾）、ベルリン芸術大学、弘益大学校、中央美術学院（中国）各1名、合計7名が確定している。

3. パシフィック・リム（Pacific Rim）

本学は平成18年6月から、海外協定校のアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン（米国）との間で、1年毎に相互の国を訪れる学生同士の学際的協働研究授業を10年にわたり行ってきた。

昨年に協定の継続延長が締結され平成28年度は日本ステージが開催される。

4. 国際貢献（Day-See）プログラム

本プログラムは大学院博士前期課程において学科横断的に実施し、主に開発途上国の地域を対象に美術やデザインに係る技術供与とデザイン支援を通して、国際貢献活動を実施するものである。

平成28年度はラオスにおいて、産品開発・改善を目的としたプロジェクト活動を展開する。

（4）専門性と総合性の融合を目指した教育改革

美術学部は八王子キャンパスに8学科5専攻2コース、上野毛キャンパスに2学科2コースが設置され、それぞれが高い専門性を持った教育研究を進めている一方で、学科別にタテ割りで全学科を貫くもの、いわゆる総合性に欠けることがある。

これを補う視点から、本学が目指す専門的職業人や独立した作家の育成に不可欠なプログラムとして、全学科・全学年の学生が履修できる課題解決型のPBL（Project Based Learning）科目や企業や自治体との産学官共同研究、著名な企業人や作家を招く特別講義など全学科対象のオープン科目を導入し、学生が授業を通じて触発し合うことにより柔軟な考え方や新たな創造を生み出す取り組みを継続的に実施する。

(5) 教育・研究環境の充実にに向けたキャンパス整備

本学の校地及び校舎面積は国が定める大学設置基準を満たしており、上野毛キャンパスと八王子キャンパスにおいて、それぞれの立地の特性を活かした教育研究活動が行なわれている。

特に教育研究領域に対応する専門施設に加え、共同施設（図書館、美術館、メディアセンター、アートテーク、セミナーハウス奈良飛鳥寮・山中純林苑等）も充実しており所属学科の領域外のことに触れて学ぶ環境も十分に整備されており、更にこれらの施設設備の充実を目指す。

1. 上野毛キャンパス整備

- ①統合デザイン学科・演劇舞踊デザイン学科の完成年度に向けた学科設置計画にかかる施設設備の改修工事を実施する。
- ②キャンパスに隣接した道路（都道）拡幅計画にかかる対応を進める。

2. 八王子キャンパス整備

- ①過去に実施された施設設備の修繕や改修工事履歴に基づく、長期修繕計画をまとめ効果的な施設設備の改修工事を実施する。
- ②前年度の絵画棟（高層棟）に続き、同（低層棟）の耐震補強工事を実施し学生の教育上の安全を確保する。

(6) 管理運営の強化

1. 人事制度の見直し

- ①新人事管理システムの導入と円滑な移行を実施する。
- ②新人事制度へ向けた課題抽出及び情報収集、新賃金テーブル（案）を策定し提示する。

2. 人材の採用・育成

- ①流動化する雇用環境（派遣労働者、障がい者、女性活躍等）に対応するため新規職員採用に向けた調整及び方針を決定する。
- ②SDに基づく研修プログラムを策定し実行する。
- ③就業に関する自己申告制度による個別面談を実施する。

3. 法改正及び危機管理対応

- ①平成27年12月より義務付けされた労働者に対するストレスチェックを実施する。
- ②平成28年1月より施行されたマイナンバー制度の円滑な運用に努める。
- ③巨大災害発生時の地域自治体との協力・連携等による危機管理体制を構築する。

4. 財政基盤の強化

- ①平成29年4月からの消費税増税に対応すべく財政基盤強化のため、効率的な予算執行と無駄を省く経費削減を進めて、継続的に安定した教育資金の確保に努める。

5. 創立80周年記念奨学基金の募金目標額（1億円）達成

- ①経済的な支援を必要とする学生への奨学金給付を実施するため、その原資となる基金募集活動（2カ年目）を進める。

3. 平成28年度事務部門の計画（骨子）

事務部門における主な計画の骨子は以下の通りである。

1. 教育改革面の推進計画

教務部

- ①教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取り組み
- ②大学基準協会大学評価（2015年度申請）における指摘課題（組織）対応ー1
- ③大学基準協会大学評価（2015年度申請）における指摘課題（教育）対応ー2
- ④教務部コンピュータシステム整備
- ⑤国際交流の推進・制度化
- ⑥地域連携に関する取り組み

入学センター

- ①全学科による推薦入学試験実施
- ②Web出願に向けた検証
- ③入学試験のミス防止
- ④イベント計画と広報業務の効率化
- ⑤公的機関との連携強化

研究支援部

- ①研究費に関するルール・事例集の整備進捗
- ②公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく体制整備の促進
- ③学内研究活動の活性化と情報公開促進

学生部

- ①学生支援の見直し（方針策定、体系的支援基盤構築、奨学金制度等）
- ②学生満足度の向上（意見箱、学生生活調査、学生モニター等）

- ③課外活動支援（クラブ団体、芸術祭、上野毛キャンパス学生）
- ④多様化する学生支援（欠席過多学生、障がいを持つ学生）
- ⑤進路・就職支援（就職率と就職内定率向上）
- ⑥就職活動時期の変更対応（ガイダンス、相談体制、合同説明会）
- ⑦教職員の連携強化（学生支援委員会、就職担当教員）
- ⑧上野毛美術学部生、造形表現学部生への支援体制強化
- ⑨悩める学生への進路・就職相談等支援強化（学生相談室、保健室、各研究室）

図書館

- ①サービスの充実と学内利用者の満足度向上（ガイダンス、講習会、企画イベント）
- ②蔵書・資料の整備充実（学生（選書）ツアー、貴重書の収書指針、学科からの要望資料の悉皆受入）
- ③運営・管理のレベルアップ（上野毛新体制の安定化・業務委託導入、I Cタグシステムリニューアル）

美術館

- ①展覧会（収蔵コレクション展等年間6本）
- ②博物館実習（希望者50名、55日間）
- ③アウトリーチ活動（多摩市内小学校との共同運営）

メディアセンター

- ①研究C：データベースを使った研究活動支援
- ②情報C：学内ネットワーク環境の整備
- ③映像C：映像センター作業効率向上のため関連施設のメンテナンス実施
- ④写真C：スタジオ施設、写真機材の有効活用、講習会開催
- ⑤工作C：安全衛生診断に基づく安全第一の運営、3D切削機の導入
- ⑥CMTEL：展示収蔵品の収集・充実
- ⑦上野毛スタジオ：造形表現学部保有機材の移管準備

生涯学習センター

- ①八王子キャンパスでの事業展開の計画策定・検討・実施
- ②Web利用による活動内容の周知広報、申し込み手続き等の環境整備
- ③自治体や団体等の連携活動強化

芸術人類学研究所

（1）研究プロジェクトと連動した大学内外における連携活動の推進と教育活動

- ①学内連携と本学学生への研究成果還元
大学美術館、生涯学習センター、学生へ研究所主催の研究会開放、フィルム

セレクション

②社会連携

「土地と力」プロジェクト、学外研究機関等との共同プロジェクト

③地域連携

各種ワークショップ、里山プロジェクト

(2) 研究会・プロジェクトの計画

①「土地と力」プロジェクト

②ユーロ=アジアをつらぬく美の文明史プロジェクト

③野外をゆく詩学プロジェクト

④贈与と祝祭の哲学プロジェクト

⑤来たるべき美術プロジェクト

⑥縄れのデザインプロジェクト

造形表現学部事務部

①在学生の卒業支援（設置最終年度）

②学生相談体制の充実

③学生生活の向上

④造形表現学部事務の引継ぎ

学籍簿整備、卒業生の確定、業務移管先への円滑な引継ぎの実施

2. 管理運営面の推進計画

総合企画室

①法人ならびに大学・学生募集に関する基本的計画にかかわる企画立案

②入学試験に関する市場の調査ならびに諸統計等の収集・分析

③高等学校訪問計画の作成・実施

④広報誌の見直し

⑤ホームページの見直し

⑥大学広報の強化

総務部

(1) 施設整備計画

①上野毛キャンパス施設・設備の整備

各棟における統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科体制へ向けた施設改修

②八王子キャンパス施設・設備の整備

絵画棟（低層棟）耐震補強工事

GHP空調更新工事（メディアセンターB1F・1F）

PBX電話交換機更新工事

省エネルギー対策のため直管形蛍光灯LED化（本部棟）
学生クラブ棟外装改修工事

(2) 管理運営計画

- ①人事制度の見直し
- ②人材の採用・育成
- ③法改正および危機管理への対応
- ④山中純林苑、奈良飛鳥寮セミナーハウスの管理・運営
- ⑤各建物の長期修繕計画作成
- ⑥備品管理データの更新
- ⑦災害備蓄品の更新

経理部

- ①資産運用基準変更及びポートフォリオの検討
- ②創立80周年記念奨学基金目標額の達成
- ③財務基盤強化（教育研究経費支出の現状維持と管理経費支出の▲3%削減）
- ④未整備のマニュアル作成

以 上